

JICA 中国

PROFILE

独立行政法人 国際協力機構
中国センター



人と人、国と国をつなぎ、SDGsの達成を

2022年4月1日付で理事長に就任しました。6年半ぶり2度目の就任となりますが、この間に世界は大きく変わりました。ミャンマーやアフガニスタンでは政変が起き、ロシアによるウクライナ侵攻により多くの死傷者や避難民が発生するなど、自由主義的国際秩序は今世紀最大の挑戦を受けています。

新型コロナウイルス感染症が未だ収束しないなか、この戦争は世界経済にも大きな打撃を与えています。気候変動に起因するとみられる自然災害も世界各地で増加しました。このような現在進行中の複合的危機は、全人類への脅威であり、開発途上国の経済社会、とりわけ、貧困層など最も脆弱な人々に甚大な影響を与え、持続可能な開発目標（SDGs）の達成も危ぶまれています。

この危機を乗り越え、国際社会の平和と安定および繁栄を確保するために、日本は国際社会をリードし、協調、協力を進めていくことが重要です。これまで日本は、世界経済のダイナミズムの中心となりつつあるインド太平洋地域において、自由・民主主義、法の支配、航行の自由といった普遍的価値やルールに基づく国際秩序の維持・強化のために、外交政策の柱である「自由で開かれたインド太平洋（FOIP:Free and Open Indo-Pacific）」の実現に取り組んできました。今後、これをさらに力強く推し進める必要があります。

JICAは日本のODA実施機関として、「信頼で世界をつなぐ」というビジョンの下、「人間の安全保障」と「質の高い成長」をミッションの両輪として、SDGsを達成するため4つの重点課題「People」「Planet」「Prosperity」「Peace」への協力を行っています。また、現在進行中の複合的危機に対しては、これまで以上に強靱な社会、そして、より良い未来を共に創っていく、創造的復興（Build Back Better）の実現に取り組めます。

具体的には、開発途上国の保健医療システムの強化を目指す「JICA世界保健医療イニシアティブ」の推進や経済対策・社会的脆弱層への支援などを通じて、開発途上国と共に新型コロナウイルス感染症の危機を乗り越えていきます。また、それぞれの国の実情に合わせた気候変動対策を支援し、強靱な社会づくりを後押ししていきます。

またFOIPの実現に向けて、法の支配・ガバナンス分野や海上保安分野への協力のほか、地域の連結性強化に資するインフラ整備などを行い、普遍的価値の浸透に向けた取り組みを行います。

ウクライナに対しては、情勢を注視しつつ、国家基盤を支える協力、避難民および周辺国への協力、そして、これまでJICAが他国で培った経験を生かした復旧・復興開発支援に取り組めます。

アフガニスタンは、2022年6月に震災にも見舞われ厳しい情勢下にあることなども踏まえ、国際機関と連携した事業など、幅広い人道ニーズに応える支援を継続していきます。

さらに開発途上国において、「国づくりは人づくり」の考え方に基き、JICAの強みを生かした人材育成を展開します。また、日本独自の開発経験を共有する「JICA開発大学院連携」や「JICAチェア」などの取り組みを通じ、親日派・知日派リーダーの育成にも引き続き貢献していきます。

そうしたなかで、日本国内の少子高齢化による労働人口の減少という課題に対しても、将来の日本の国のあり方も考えながら、JICAが持つ国内外での経験や人的資源を活用して貢献していきたいと考えています。日本で就労する外国人材の適正な受け入れや、日本国内の多文化共生社会の構築に向けた支援を行うことで、開発途上国と日本の双方の関係強化と発展を目指します。

2021年にJICAは開発インパクトを最大化するために、「JICAグローバル・アジェンダ（課題別事業戦略）」を策定しました。同アジェンダは、国内外の多様な力を結集し戦略的にそれぞれの課題に取り組む、各国のSDGsの達成や地球規模の課題解決に貢献せんとするものです。

またJICAは、多様なパートナーとの共創、広範な資源動員、さらには科学技術・デジタル技術の活用を推進し、革新的な取り組みを促進すると同時に、事業・組織運営の両面でジェンダー平等を含む多様性を尊重していきます。

JICAの事業は、現場での活動の積み重ねであり、人と人、国と国との「つながり」を深めていくものです。新型コロナウイルス感染症の影響を受けていた専門家や海外協力隊の派遣、研修員の来日など、人の往来も本格化しつつあります。安全を第一に、可能な限り早く現場での活動をコロナ禍以前の水準にまで戻し、開発途上国に「Japan is back」というメッセージを届けていきたいと思えます。



2022年12月
国際協力機構理事長
田中 明彦

Mission

JICAは、開発協力大綱の下、人間の安全保障※と質の高い成長を実現します。

※人間一人ひとりに着目し、生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威から人々を守り、それぞれの持つ豊かな可能性を実現するために、保護と能力強化を通じて持続可能な個人の自立と社会づくりを促す考え方のこと。

Vision

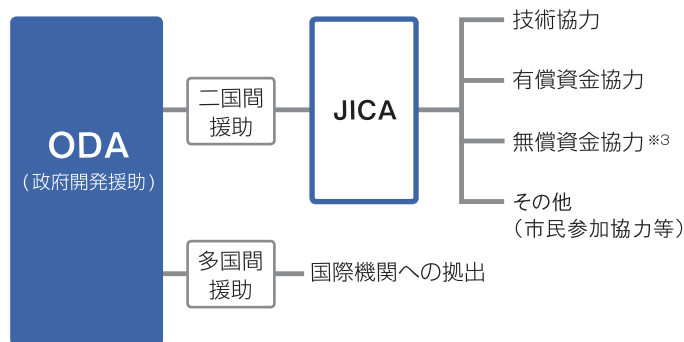
信頼で世界をつなぐ

JICAは、人々が明るい未来を信じ多様な可能性を追究できる、自由で平和かつ豊かな世界を希求し、パートナーと手を携えて、信頼で世界をつなぎます。

ODAとJICA

日本は、1954年にコロンボ・プラン※1に加盟して以来、「国際社会の平和と安定及び繁栄の確保により一層積極的に貢献すること※2」を目的に、政府開発援助（ODA: Official Development Assistance）として、開発途上国に資金的・技術的な協力を実施してきました。

JICAはODAのうち、国際機関への資金の拠出を除く、二国間援助の3つの手法、「技術協力」「有償資金協力」「無償資金協力」※3を一元的に担っています。世界最大規模の二国間援助機関であるJICAは、約90カ所にのぼる海外拠点を窓口として、世界154の国・地域で事業を展開しています。



※1 コロンボプラン：南アジア、東南アジア、太平洋地域諸国の開発援助のために1950年に設立された国際機関。スリランカのコロンボに事務局がある。

※2 2015年2月策定、開発協力大綱より。

※3 機動的な実施の確保その他外交政策の遂行上の必要に基づき、外務大臣が自ら行うものとして指定する無償資金協力を除く。

国内拠点の役割

JICAは、東京の本部に加え、各地域に国内拠点を設置しています。

国内拠点は、JICAの国際協力の重要な現場です。開発途上国から来日する研修員に我が国の経験・技術を学ぶ機会を提供したり、ボランティアの訓練を実施することを主な目的としていますが、地域の人々との交流を深める場にもなっています。また、JICA事業や国際協力に関する情報を提供したり、グローバル人材の育成支援、自治体やNGO、大学、民間企業などと連携した国際協力事業を幅広く推進しています。

国内拠点は、開発途上国と日本の各地域を結ぶ架け橋として、地域の特色を活かした国際協力を推進するとともに、国際協力を通じて地域の発展にも貢献する活動を進めていきます。

国内拠点・地球ひろば

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| ① JICA北海道／ほっかいどう地球ひろば | ⑨ JICA北陸 |
| ② JICA東北 | ⑩ JICA中部／なごや地球ひろば |
| ③ JICA二本松 | ⑪ JICA関西 |
| ④ JICA筑波 | ⑫ JICA中国 |
| ⑤ JICA東京 | ⑬ JICA四国 |
| ⑥ JICA地球ひろば | ⑭ JICA九州 |
| ⑦ JICA横浜 | ⑮ JICA沖縄 |
| ⑧ JICA駒ヶ根 | |



JICA中国からのメッセージ

地域から世界へ、世界から地域へ 国際協力を通じた中国地方と世界とのつながりを目指して

JICA中国は中国地方5県を所掌し、開設以来、中国地方の特性を活かした開発途上国支援と日本の地域社会への貢献の両立を目指し、海外からの研修員・留学生受入れ、ボランティア(海外協力隊)事業、草の根技術協力事業、中小企業・SDGsビジネス支援事業、国内での開発教育支援事業など多様な取り組みを、地方自治体、大学、NGO、民間企業、一般市民の方々に参加をいただきつつ実施してきました。

これらの継続とともに、少子高齢化の中、外国人材受入れにより、近年中国地方においても外国につながるを持つ方が増加し、経済社会活性化の観点からも地域の大切な一員となっています。更にこの傾向が強まるとの認識の下、国籍などの異なる人々が、互いの文化的多様性を認め合い、対等な立場で共に生きていく「多文化共生社会」を促進し、「共創」を生み出し、地方の経済社会の活性化につなげていく取り組みを目指します。

また、世界の課題・SDGsについて、自分事として考え解決に向け行動できる人材育成も重要であり、地域の開発教育支援を通じ、広く気づき・関心を醸成していければと思います。

「信頼で世界をつなぐ」。JICA中国は、中国地方と世界との「つながり」の強化を目指して、地域社会と海外の結節点として活動していきます。



JICA中国ウェブサイト・SNS

JICA中国の最新の活動はこちらから。ぜひご覧ください！



JICA中国 ウェブサイト



JICA中国 事業実績



JICA中国 Facebook



JICA中国 X(Twitter)



課題別研修「アフリカ地域初等理科教授法改善」授業実践風景

中国地方の経験から学ぶ「平和」と「技術」 研修員受入事業

もっと詳しく
「研修員受入事業」

JICA中国 研修員受入事業



中国5県の経験と技術が、途上国発展のヒント

JICA中国では、人類初の原爆投下から復興した広島県の経験、各県の大学が得意とする教育、乾燥地農業といった研究分野、中山間地・離島における地方創生の取り組みなど、この地域が有する強みや課題克服に向けた活動を途上国の開発に繋げる研修事業を展開しています。約140か国の開発途上国から、年間約50コース/500人の政府を代表する行政官、NGO、民間団体職員などをJICA研修員として中国地方に招き、これまで11,000人以上を受け入れてきました。

研修期間中、研修員は中国5県の行政、民間団体・企業や研究・教育機関から「知の蓄積」を学ぶとともに、被爆の実相と復興を共有する平和研修や日本文化体験といった交流プログラムを通じ、中国地方から日本の歴史、社会、文化も学びます。



「パキスタン上下水道管理能力強化プロジェクト」にて、弥栄ダムを視察する研修員



「サブサハラ・アフリカ初等理科教授法と評価手法」にて、磁石の働きを学ぶ研修員

平和構築分野の研修に参加した研修員より

目覚ましい戦後復興を遂げた広島での研修は自国の復興への道のりにおいて大変参考になった。講師からいただいたメッセージ“HEIWA”という言葉を胸に自国の平和構築に寄与したい。



「海上保安政策プログラム」にて、海上保安大学校で操船のシミュレーション施設を見学している研修員



メキシコ国にて漁獲量の減少した海域に沈設したシェルナース（人工貝殻漁礁）周辺に魚が集まってきている様子

日本の技術 世界を変える 企業の海外展開をサポート 中小企業・SDGsビジネス支援事業

もっと詳しく
「中小企業・SDGs
ビジネス支援事業」

JICA中国 中小企業・SDGs
ビジネス支援事業



中国地方から途上国ビジネスの舞台へ

瀬戸内側の山陽と日本海側の山陰。気候も風土も地場産業も異なる中国地方には、基幹産業や伝統産業を長年支えてきた高度な技術力を持つものづくり企業、その技術力と豊富な地域資源を活かして新たな分野を目指すオンリーワン企業が多くあります。

途上国に進出したい企業と日本の技術を必要とする途上国。JICAは長年ODAで培った途上国政府とのネットワークや情報で、企業と途上国の仲介役として、企業の海外展開のお手伝いをします。

JICAは企業が事業の実施可能性を調査する際にステップに応じた様々な支援メニューをご用意しています。途上国はその技術を必要としています。中国地方から途上国でのビジネスを目指しませんか。



ベトナム国にて干満式人工湿地による水質浄化の調査をしている企業



マレーシア国で最適な水面清掃船の検討のため海洋ごみの回収作業をしている様子

中小企業・SDGsビジネス支援事業 担当者より

海外展開に興味はあるけれども自社製品、技術が途上国の課題解決にどのように生かせるのか相談をしたい方から具体的にビジネスプランをお持ちの方までお気軽にご相談ください。一緒にビジネス展開について考えていきましょう。本事業を通じて海外展開が初めての企業様も多く調査を実施されています。



カンボジア国で活性炭の原料となる椰子を調査中の企業



小学校で、算数や体育や図工などを中心に授業改善に取り組んでいる（ガボン / 小学校教育）

世界もあなたも、可能性に満ちている JICAボランティア事業

もっと詳しく
「JICAボランティア事業」

JICA中国 JICAボランティア事業



一歩踏み出したその先にある、世界の人々とのつながり

JICA海外協力隊として世界で活動してきた中国地方出身者は、これまで3,500人以上に及びます。自分の持つ技術や経験を活かして国際貢献を志す方達が、開発途上国で現地の人々と共に改善に取り組んでいます。日本とは異なる気候風土、価値観、文化、組織の中で活動することにより、コミュニケーション力、適応力なども身につけていきます。

JICA海外協力隊の目的の一つは、帰国後、身に付けた経験・能力を日本社会に還元すること。グローバル化が進む現在、中国地方でも自治体や民間企業などでJICA海外協力隊経験者が活躍しています。

「できることは必ずある。」一歩踏み出して、世界も自分も変えてみませんか。

「JICA海外協力隊を勧める理由」

堤 尚彦さん おかやま山陽高校 硬式野球部 監督

私がJICA海外協力隊を色々な人に勧める理由は、①豊か過ぎる日本の生活から離れ、生きる逞しさが身に付き、五感が研ぎ澄まされる、②学校でいくら勉強しても身に付かなかった語学が自然と身に付き、③自分の価値観がいかに狭い範囲のものであったかを知り、人間としての器が大きくなる、④現地で生涯の友と出会える、⑤自分のルーツや親や先祖を知りたくなるし、大切に思うようになる、⑥孤独が隊員を強くし、笑顔と挨拶、元気良くと小学生の時に言われていたことの意味が分かるようになる、⑦何のために生きているのかを考えるようになる、⑧日本や世界、地球が大好きになるからです。こういったことを学校で習いますか？これ以上必要なことがありますか？JICA海外協力隊の活動を通じて、これだけの素晴らしいことを経験できます！！



音楽院で、ピアノの演奏指導（チュニジア/音楽）



ジュニア層の卓球技術強化のため、巡回指導（ペリース/卓球）



国立博物館で収蔵品の管理・保管・記録など技術指導（ラオス/学芸員）

ナショナルチームのコーチ、国内のスイミングスクールのコーチにも巡回指導（ヨルダン/水泳）





岡山県津山市 / 社会福祉法人やすらぎ福祉会 「こけないからだ体操」を通じた介護予防事業の支援

地域の技術や経験を途上国の発展に 草の根技術協力事業

もっと詳しく
「草の根技術協力事業」

JICA中国 草の根技術協力事業



「ほっとけない」あなたの熱意が途上国と日本を元気にします

草の根技術協力事業は、日本のNGO、地方自治体、大学、民間企業等の団体が、蓄積した知見や経験に基づいて提案する国際協力活動を、JICAと団体の協力関係のもとに実施する共同事業です。

教育、平和構築、保健医療・福祉、農業などの分野で、中国地方の提案団体の特性を生かした活動を開発途上国で展開、現地での技術指導のための日本人専門家派遣や関係者を日本に招いての研修を実施しています。活動を通じて、地域の活性化や国際化を促す機会となることも期待されます。

草の根技術協力は、「開発途上国の未来のために」という皆さんの熱い思いが出发点です。これまで培ってきた技術や経験を、開発途上国の人々のために役立ててみませんか。



特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールドによるカンボジア「小学校から高等学校まで一貫した高い質で学ぶ『Physical Education for All』プロジェクト」



国立大学法人広島大学大学院人間社会科学研究科国際教育開発プログラム「マラウイ農村部における就学前教育アクセスの向上と質の改善」



特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン「トリノコマリー県の地元資源を生かした循環型農業の普及による小規模農家の持続可能な生計の確保」

草の根技術協力事業 実施団体

浜田市世界子ども美術館 プロジェクトマネージャー・高野 訓子さんより

私たちは、浜田市が国際友好を進めるプータンで美術教育支援を行っています。画材も入手しにくく授業実践が進まないプータンで、廃材や自然素材などを活用し、表現することの面白さを伝えられるよう、プータンと浜田市で協働しながら取り組んでいます。プータンの先生たちのエネルギーと情熱が子どもたちの心を刺激し、学校内や地域内には新しい風が吹いています。





世界の問題や異文化を考える授業づくりのため、教員が開発途上国を訪問する「教師海外研修」

世界はあなたにつながっている！その一歩が世界を変える 開発教育支援事業

もっと詳しく
「開発教育支援事業」

JICA中国 開発教育支援事業



地球規模で考え、地域で行動する。今、自分にできること。

グローバル化が進み、地域もますます国際化する中、地球のどこにいても、自らのライフスタイルや価値観を見つめ直し、日本を含めた国際社会が抱える問題を当事者として考えることが重要になっています。

また、教育現場では「持続可能な社会の創り手」の育成がうたわれ、多様な価値観・生活習慣をもつ人々と国内外で共存できるよう、児童生徒が互いの文化を理解し、尊重し、違いを認め合うなど、新たな社会で生きていくために必要な資質や能力を育むことが求められています。

開発教育支援事業では、児童生徒や教員をはじめとする教育関係者、そして地域に暮らす市民の方々が、世界の問題や国際協力について知り、考え、自ら行動に移すきっかけとなるためのプログラムを提供しています。



「国際教育研修会」
授業の実践例や参加型手法を伝え、国際教育の取組みに役立ててもらおう



「国際協力出前講座」
途上国での生活やボランティア体験を学校現場に「出前」し、異文化の空気を感じてもらおう

子どもたちが「当たり前」を見つめ直すきっかけをつくる授業へ

中村 祐哉 教諭 JICA中国「教師海外研修」・JICA地球ひろば「国際理解教育／開発教育指導者研修」過年度参加者

教師海外研修で感じた多くの「なぜ」。この「なぜ」が生まれるプロセスには、私たちの「当たり前」という主観が内包されています。この「当たり前」自体をこれからの未来を担う子どもたちと共に問い、考え続けていきたいと思っています。考え続けるためには、研修の経験を、継続的にブラッシュアップしていくことが極めて重要です。JICA中国の開発教育支援事業プログラムを活用させていただくことで、実践・研究に新たな視点や、つながりを見出すことができます。私は、この視点とつながりを、また次なる授業に生かすというサイクルを大切にしています。



「JICA中国施設訪問『国際理解教室』」
JICA中国を訪問し、途上国の文化や暮らし、世界の問題、国際協力について学ぶ

はじめの一步NGOスタートアップ支援

世界の人びとのためのJICA基金活用事業

国際協力に関心のある皆さまの「思い」を繋げる事業

JICAでは、国際協力に関心のある市民の皆さま、法人・団体の皆さまからの寄附金を基に「世界の人びとのためのJICA基金活用事業」を実施しています。

本事業は、活動経験が浅い団体を支援することを目的としており、伴走支援者によるサポートを受けながら事業を実施することも可能です。また、草の根技術協力事業のご応募に向けたステップとしても活用いただけます。



ゲール
モンゴル「モンゴルの子ども達の栄養改善・食育プロジェクト」



チーム 夢のかけ橋
ブータン「ブータンでの脳卒中リハビリセンター運営」



国際NGO ViVID
ガーナ共和国「セイチェレ村「村おこし」事業2022」

市民のみなさまへ

JICAは、市民のみなさまに開発途上国の現状や国際協力の必要性について理解いただくため、関係機関と連携し、各県で様々なイベントやセミナーを開催しています。

研修員の学校訪問

幼稚園から高校、特別支援学校に開発途上国から来た研修員を派遣して、児童・生徒が日本を紹介したり、研修員が自国を紹介して、学びあう機会を提供しています。



研修員の大学訪問

大学、短大、高専の学生たちが、海外に目を向け、多様な考え方に触れる機会を提供するために、研修員を大学等のゼミなど、少人数のグループに派遣する機会を提供しています。

各種イベント

各種イベントでJICA中国のブース等を出展しています。世界を身近に感じてもらえるような資料を取り揃えています。ぜひ一度、覗いてみてください。



海外の現場を見学

主に高校生や大学生などが学校の事業等の一環で海外のJICA事務所を訪問し、現地でのJICAの役割などを学ぶための手続きを行っています。

フロアガイド

「ひろしま国際プラザ」は、JICA中国と広島県立広島国際協力センターとが一体化した複合施設です。より多くの方々にご利用いただき、行き交う各国の研修員と気軽に言葉を交わしていただけるような場作りを目指しています。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



セミナールーム

各種講義に使用されます。



情報センター・図書室

(公財) ひろしま国際センターにより管理・運営される情報センター・図書室は、国際協力や開発途上国に関する資料を中心に所蔵しています。

【開 室】 平 日 10:30~12:30、13:30~19:00
土・祝 10:30~19:00

【休 室】 日曜日・年末年始



JICAプラザ

JICAスタッフや開発途上国からの研修員、ボランティアの人々の手によって、世界中からやってきた民族衣装、民芸品などを展示しています。また、JICAの業務をお伝えするパンフレットを数多く取り揃えています。

【開 館】 平日 9:30~17:45

【休 館】 土日祝



レストラン「ラコルト」

ひろしま国際プラザ1階のレストラン「ラコルト」は、滞在中の外国人研修員だけでなく、一般の方々もご利用いただけます。世界の味を楽しめる「ラコルト」で、『食』を通じて世界を感じてみませんか？

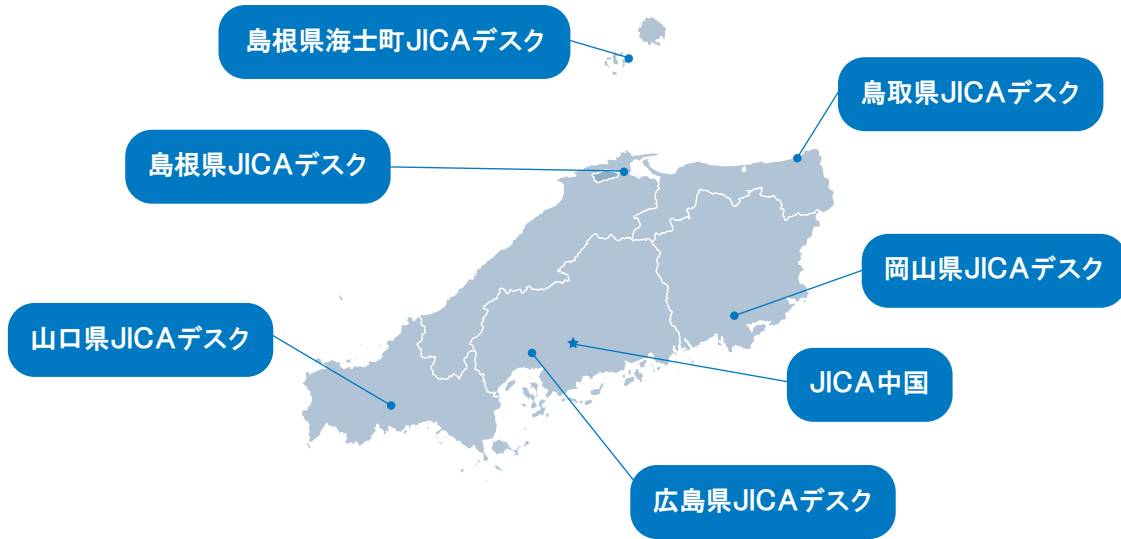
【ランチ】 11:30~14:00 (ラストオーダー/13:30)

※年中無休 (年末年始を除く)



中国5県のJICA窓口

あなたに一番近いJICA窓口です。開発途上国で活躍した経験を持つ国際協力推進員が、各地域のJICAデスクで、皆さんのお越しをお待ちしています。



鳥取県JICAデスク

配属先：(公財)鳥取県国際交流財団
〒680-0846 鳥取市扇町21
鳥取県生涯学習センター（県民ふれあい会館）3階
TEL:0857-51-1165 FAX:0857-51-1175
E-mail: jicadpd-desk-tottoriken@jica.go.jp



岡山県JICAデスク

配属先：(一財)岡山県国際交流協会
〒700-0026 岡山市北区奉還町2-2-1
岡山国際交流センター内
TEL:086-256-2917 FAX:086-256-2489
E-mail: jicadpd-desk-okayamaken@jica.go.jp



島根県JICAデスク

配属先：(公財)しまね国際センター
〒690-0011 松江市東津田町369-1
TEL:0852-31-5056 FAX:0852-31-5055
E-mail: jicadpd-desk-shimaneken@jica.go.jp



広島県JICAデスク

配属先：(公財)広島平和文化センター
〒730-0811 広島市中区中島町1-5
TEL:082-242-8879 FAX:082-242-7452
E-mail: jica_hiroshima_desk@jica.go.jp



島根県海士町JICAデスク

配属先：海士町役場
〒684-0403 隠岐郡海士町大字海士1490
TEL:08514-2-1221 FAX:08514-2-1633
E-mail: jicadpd_desk_amacho@jica.go.jp

山口県JICAデスク

配属先：(公財)山口県国際交流協会
〒753-0082 山口市水の上町1-7 水の上庁舎3階
TEL:083-925-7353 FAX:083-920-4144
E-mail: jicadpd-desk-yamaguchiken@jica.go.jp



JICA中国

独立行政法人 国際協力機構 中国センター

〒739-0046
広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL:082-421-6300(代表) FAX:082-420-8082
<https://www.jica.go.jp/domestic/chugoku/index.html>

JR西条駅から

- 無料シャトルバス
西条駅前【6番のりば】
- 中国JRバス
・黒瀬・広・呉方面行き【7番のりば】
〈水源池前下車 徒歩約15分〉
・サイエンスパーク行き【7番のりば】
〈サイエンス北下車 徒歩約5分〉
- タクシー 約15分

新幹線東広島駅から

- タクシー 約15分
- 広島空港から
リムジンバス(芸陽バス・中国JRバス)
JR西条駅行
- 自動車
山陽自動車道
西条ICから 国道375号を呉方面へ約15分

